

問 自然環境保持のためにゾーニングを

答 用途別ゾーニングは消滅した経緯が



伊藤まゆみ議員

【環境・景観について】

問 住民グループは活断層を理由に飯森地区焼却施設建設を反対していた。下川村長も含め、議会も積極的に推進していた。昨年その反対理由だった断層地震を経験したが、改めて住民が当時訴えていたことの意義をどう考えるか。

村長 建設の可否を問う村民アンケートという、民主的に行われた手続きによって既に撤回された事業計画を、今この段階で昨年発生した地震と結びつけて評価することはできません。

問 農地のある景観が、この村の基幹産業である観光にとって唯一無二の観光資源で

あるとお考えか。また観光資源としての農地の景観維持をどのように推し進めていく予定か。

村長 雄大なアルプスのもとにも優る景色、観光資源はどこにも維持には農地の遊休化・荒廃化を食い止めるべく、受け手となる認定農業者の育成と支援策が欠かせません。また、転用については慎重に対処して参ります。

問 農地を含め、乱開発を防ぎ良好な自然環境を保つために池田町や松川村、原村はゾーニング(注)という手法を取っている。当村もゾーニングの必要性があると思うが。

副村長 平成10年代初めに、都市計画法に基づく用途別ゾーニングを計画したが、厳しいということと自動消滅した経緯があります。景観に基づくゾーニングはエリアごとにまだ残っています。

問 開発と規制に関し、規制を緩め大型投資を誘引す

るか、あるいは友好都市であるオーストリアのレッヒのような環境・景観を大切にしたい観光地を目指すのか、今後の白馬の方向性は。

村長 乱開発は防ぐ必要があると思いますが、どういった観光地を目指すかについては、地域や関係者の意見を聞きながら検討を進めたいと考えています。

問 ドイツの脱原発を勧告した倫理委員会や長野市の環境審議会にも、利害関係者は委員として入っていない。用地売買や建設に関わる業者を委員として任命すべきでないと考え

副村長 開発基本条例が制定される前からの経過もあり、審議会では関係者の意見を聞くことも必要であるとの認識からです。

【総合戦略・観光地経営計画・総合計画・住民参加について】

施設区分		ゾーン名							
大区分	小区分	田園景観保全	農業保全	農業交流	生活居住	生活基幹	産業創造	森林保養	自然保護
居住用施設	農家住宅	○	○	○	○	○	×	×	×
	分家住宅	○	○	○	○	○	×	×	×
	一般住宅	△	△	△	○	△	×	×	×
	アパート	×	×	×	○	×	×	×	×
宿泊施設	別荘	×	×	×	×	×	×	×	×
	旅館・ホテル	×	×	△	△	△	×	×	×
農業施設	農業生産施設	○	○	△	△	△	×	×	×
	畜舎	△	△	△	×	×	×	×	×
地域交流施設	交流活性化施設	△	△	○	△	△	×	×	×
	市民農園	○	○	○	○	○	×	×	×
文教施設	教育施設	×	△	△	○	×	×	×	×
	スポーツ施設	×	△	△	△	△	×	×	×
	美術館・博物館	×	△	△	○	△	×	×	×
医療福祉施設	福祉施設	△	△	△	△	△	×	×	×
	病院・診療所	△	△	△	△	△	×	×	×
商業施設	コンビニエンスストア	×	×	△	○	△	×	×	×
	総合日用品店舗	×	×	×	△	△	×	×	×
	喫茶・レストラン等	△	△	△	○	△	×	×	×
	風俗営業施設	×	×	×	×	×	×	×	×
	事業所・事務所	△	△	△	○	△	○	×	×
	一般小売店	△	△	△	○	△	△	×	×
工場	大規模工場	×	×	×	×	×	○	×	×
	小規模工場	×	△	△	△	×	○	×	×
その他	乗務用倉庫	×	×	×	△	△	○	×	×
	駐車場	×	×	△	△	△	×	×	×
	資材置場	×	×	×	△	△	×	×	×

(○=立地可能、△=地区・村の同意必要、×=不可)

厳しい土地利用誘導方針が、『財産である美しい田園風景維持を可能にしている』と評価された松川村(松川村土地利用調整基本計画施設用途表より抜粋)

問 観光地経営計画の第一回度の策定委員会では、「何

度も同じことをやっている」といった、計画そのものに懐疑的、否定的ともいえる意見があった。そんな意見を払拭できる内容になったと思われるか。

村長 これまでの様々な計画は計画倒れになっているとの指摘と捉え、観光地経営計画全体の進捗管理を行う「白馬村観光地経営会議」、事業推進主体の「プロジェクト推進チーム」を組織し、管理・推進すること

も計画の中で言及しています。

ゾーニング(注)：都市計画において、用途地域制をはじめとする地域地区によって土地利用を面的に規制していく行為